

5713

2007年度(平成20年3月期)

決算説明会

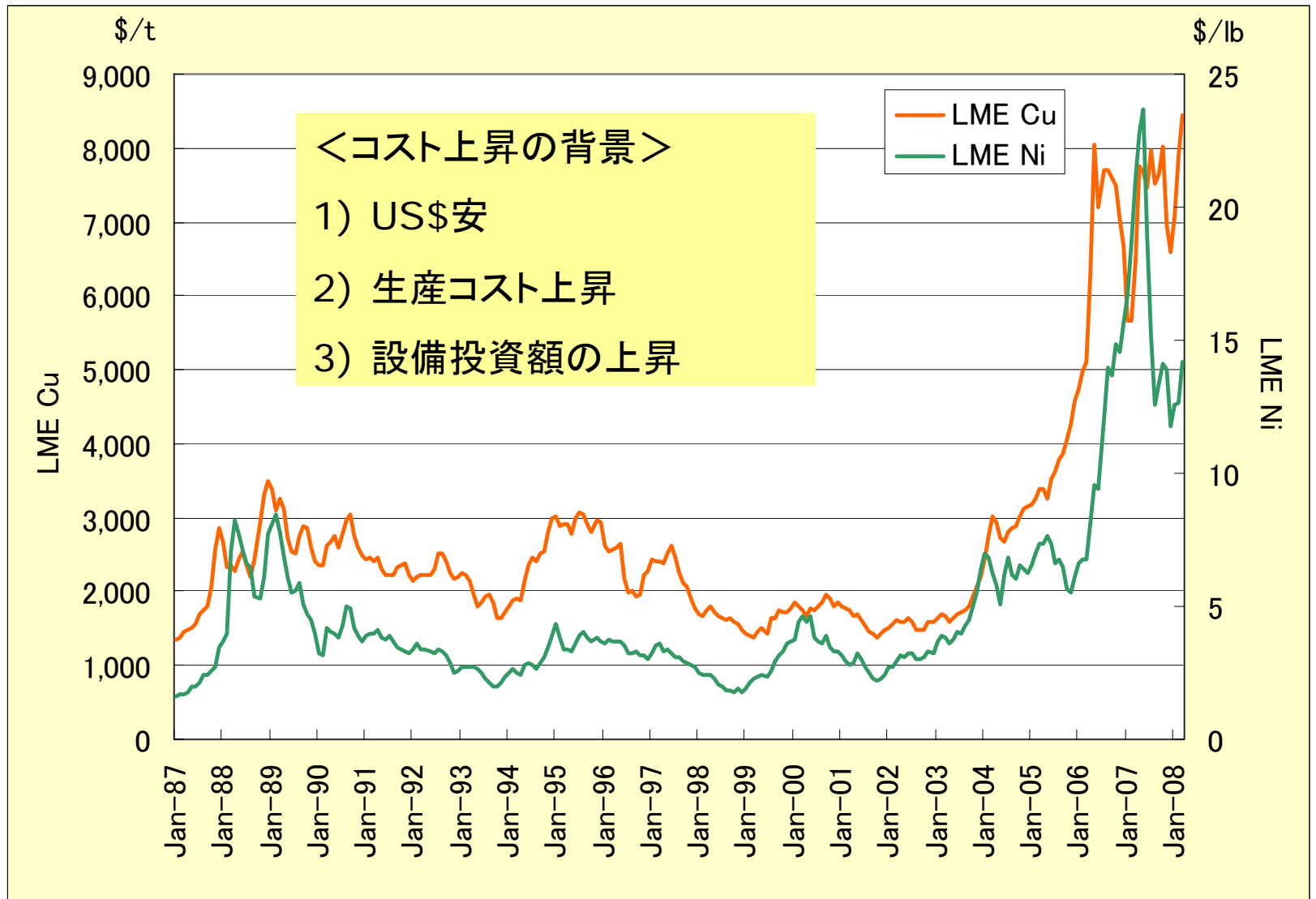
住友金属鉱山株式会社

2008年5月13日

説明内容

- I. 金属価格・為替見通し
- II. 業績推移
- III. FY07 VS FY06
- IV. FY08予想 VS FY07
- V. 中長期戦略におけるFY08の位置づけ

非鉄金属価格の共通項



大手鉱山生産者コスト（上昇推移）

<Ni> P.T.INCO Unit cash cost

	2002	2003	2004	2005	2006	2007	08-1Q
\$/lb	1.38	1.60	1.83	2.29	3.13	3.47	4.02

<Ni> P.T.INCO Unit cash cost

	07-1Q	07-2Q	07-3Q	07-4Q	08-1Q
\$/lb	3.35	3.30	3.63	3.98	4.02
INDEX	1.00	0.99	1.08	1.19	1.20

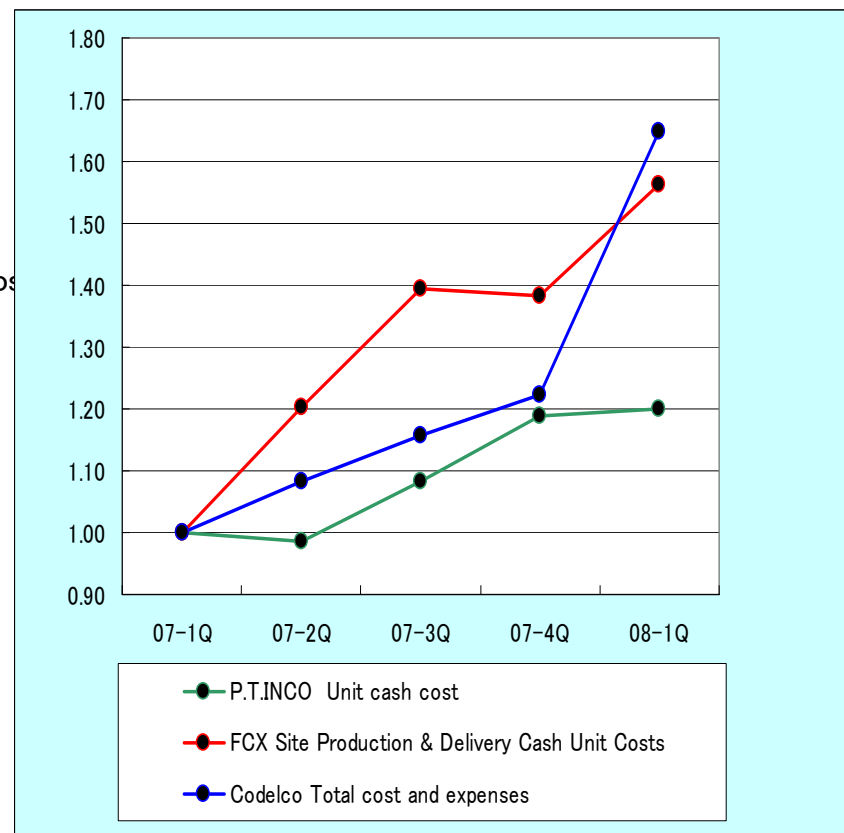
<Cu> FCX Site Production & Delivery Cash Unit Costs

	07-1Q	07-2Q	07-3Q	07-4Q	08-1Q
\$/lb	0.94	1.13	1.31	1.30	1.47
INDEX	1.00	1.20	1.39	1.38	1.56

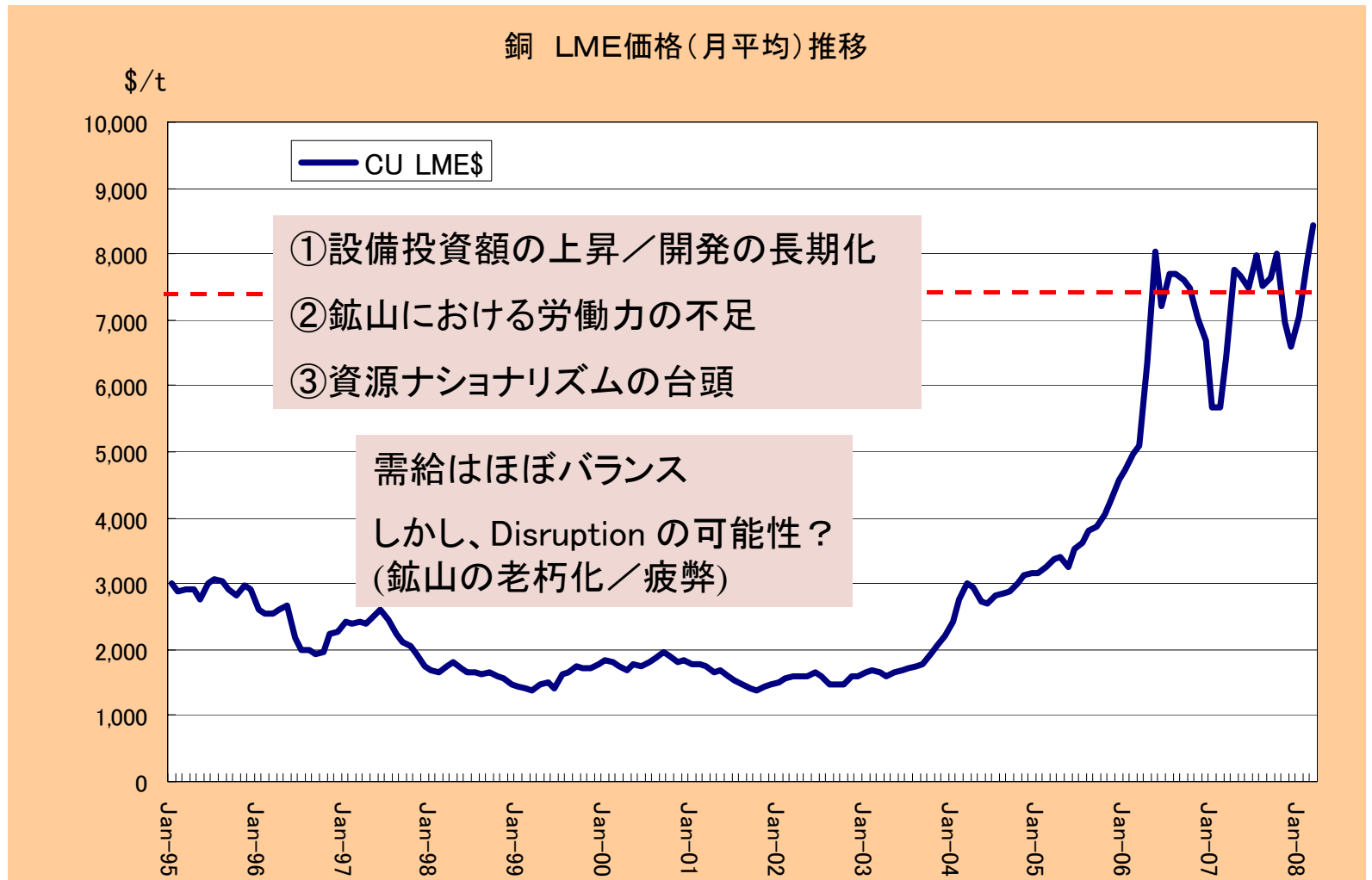
<Cu> Codelco Total cost and expenses

	07-1Q	07-2Q	07-3Q	07-4Q	08-1Q
\$/lb	1.16	1.26	1.35	1.42	1.92
INDEX	1.00	1.08	1.16	1.22	1.65

<INDEX>



Copper



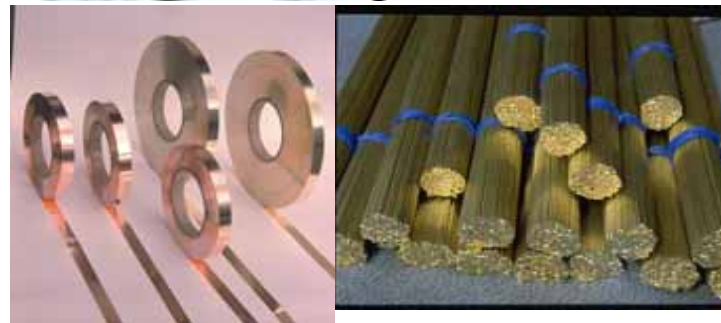
Copper 需給バランスと価格予測

	ICSG		Macquarie	B.Hunt	(kt)	
	2006	2007	2008			SMM
生産	17,323	18,089	18,578	18,769	18,852	
消費	17,028	18,126	18,493	18,805	18,695	
バランス	295	-37	85	-36	157	
FY(\$/t)	6,970	7,584	—	—	—	7,500
CY(\$/t)	6,722	7,119	—	8,003	7,716	—
予測時期	実績	実績	2008.4	2008.4	2008.4	2008.4

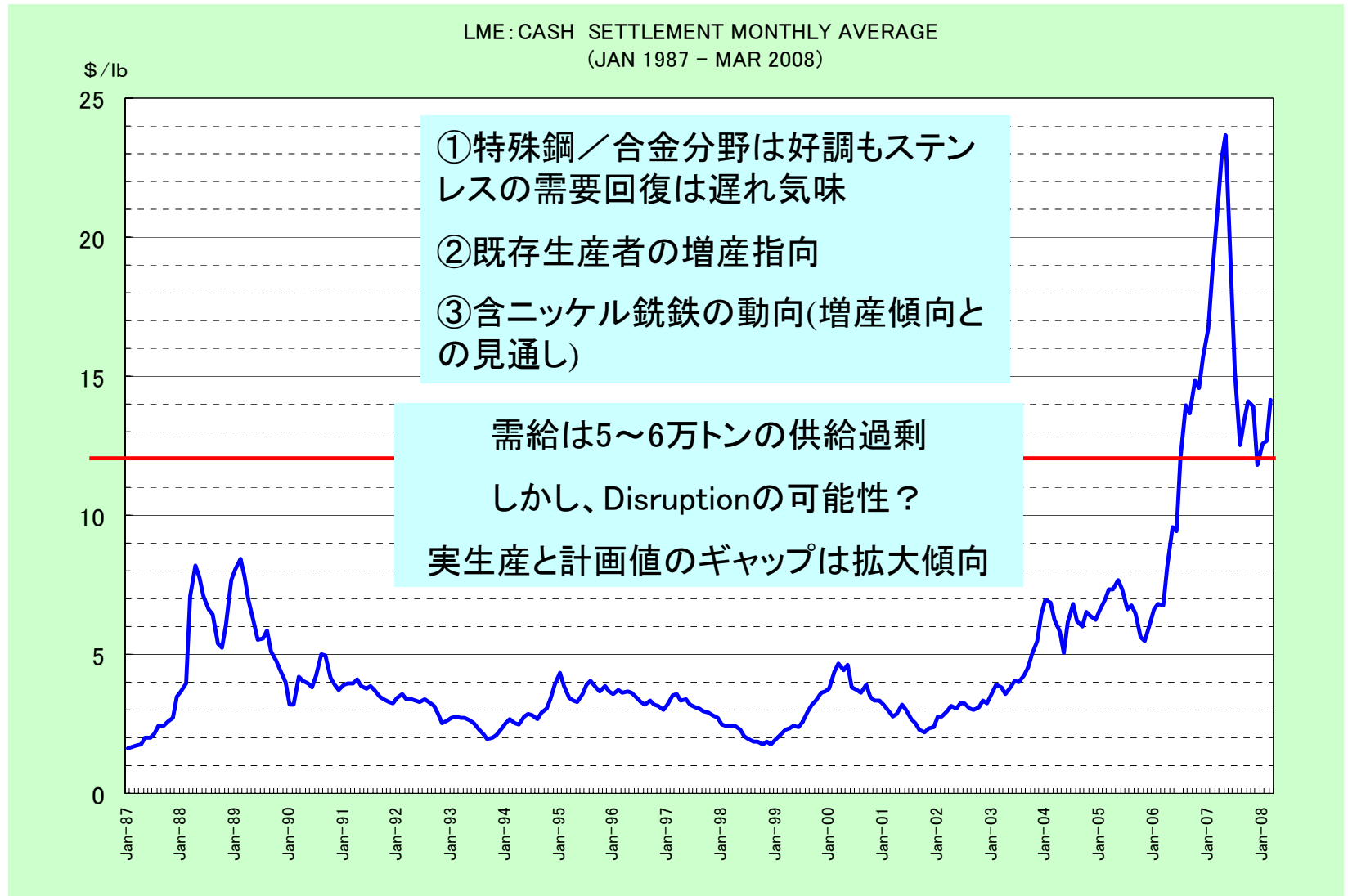
電気銅



電線、伸銅品など



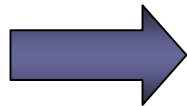
Nickel



Nickel 需給バランスと価格予測

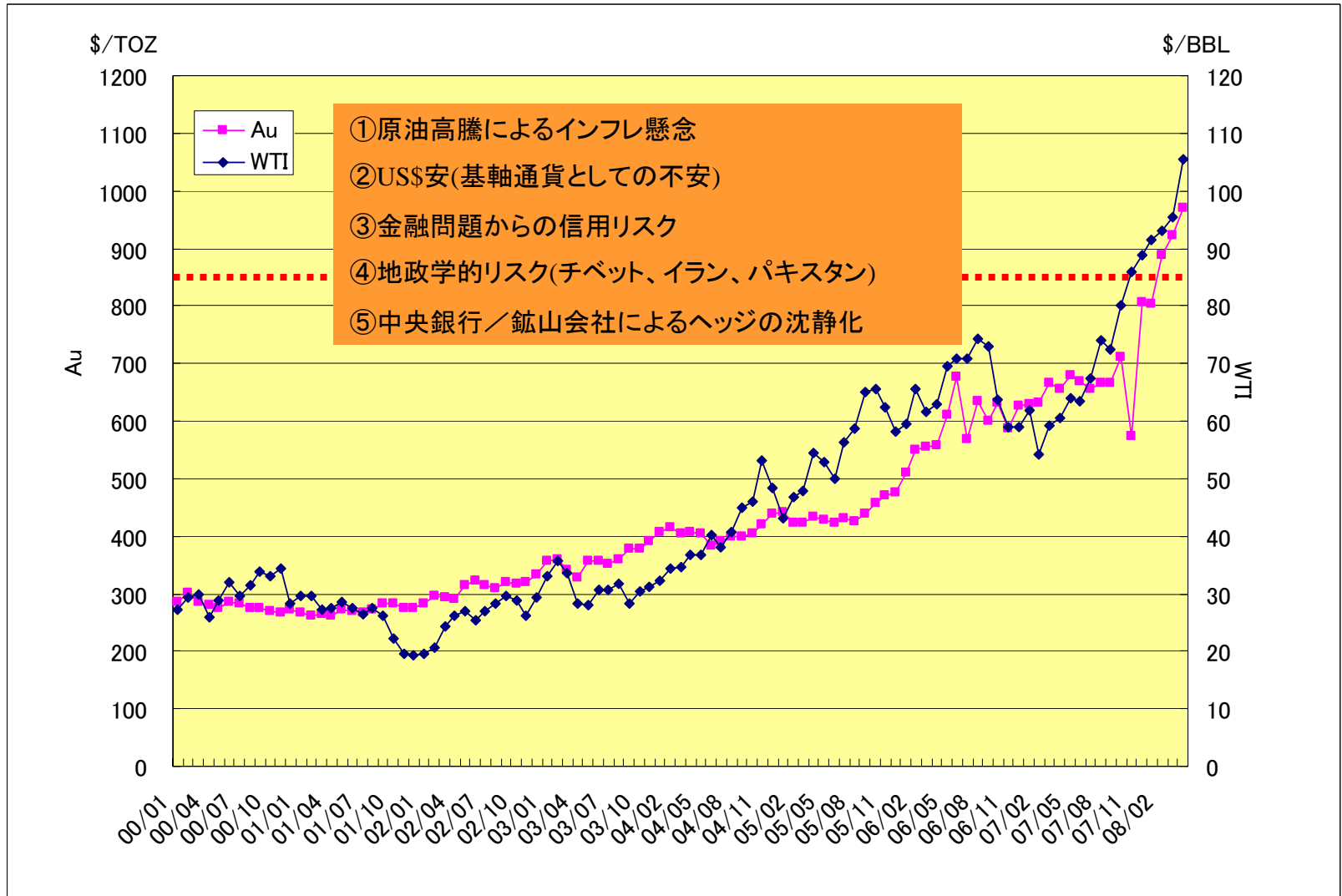
	(kt)					
	SMM			CRU	B.Hunt	INSG
	2006	2007	2008			
生産	1,313	1,341	1,420	1,511	1,543	1,541
消費	1,354	1,287	1,383	1,486	1,545	1,465
バランス	-41	54	37	25	-2	76
FY(\$/lb)	14.02	15.47	12.00			
CY(\$/lb)				12.18	12.98	—
予測時期	実績	実績	2008.4	2008.2	2008.1	2008.4
含Ni銑鉄(生産内数)	30	85	100			
ステンレス生産	28,603	28,365	31,478	31,479	32,971	—

ニッケル



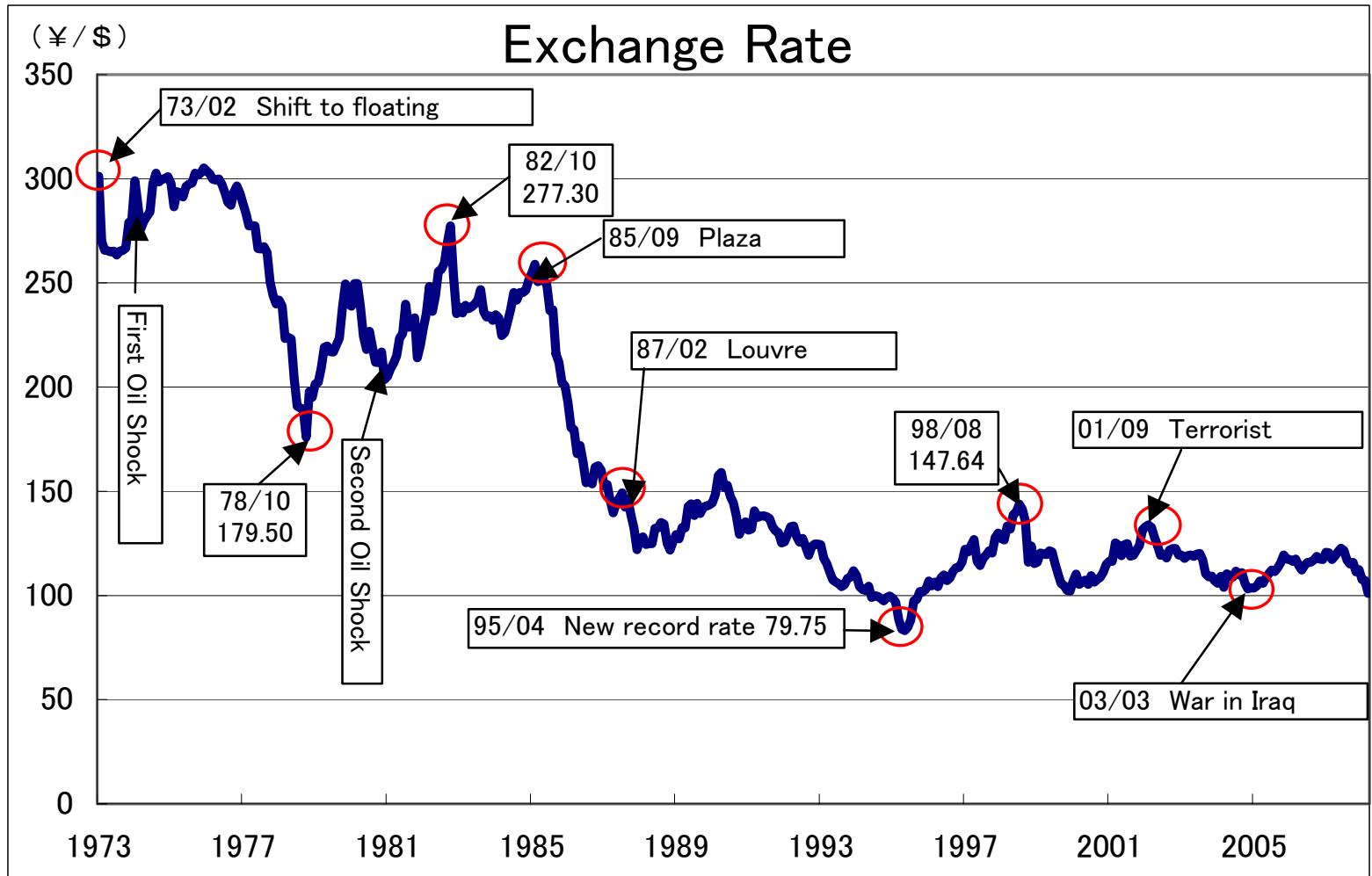
特殊鋼、ステンレス、電子材料など

Gold



Exchange

Exchange	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08 予想
JP¥/US\$	107.54	113.32	117.03	114.29	100.00



Ⅱ. 業績推移



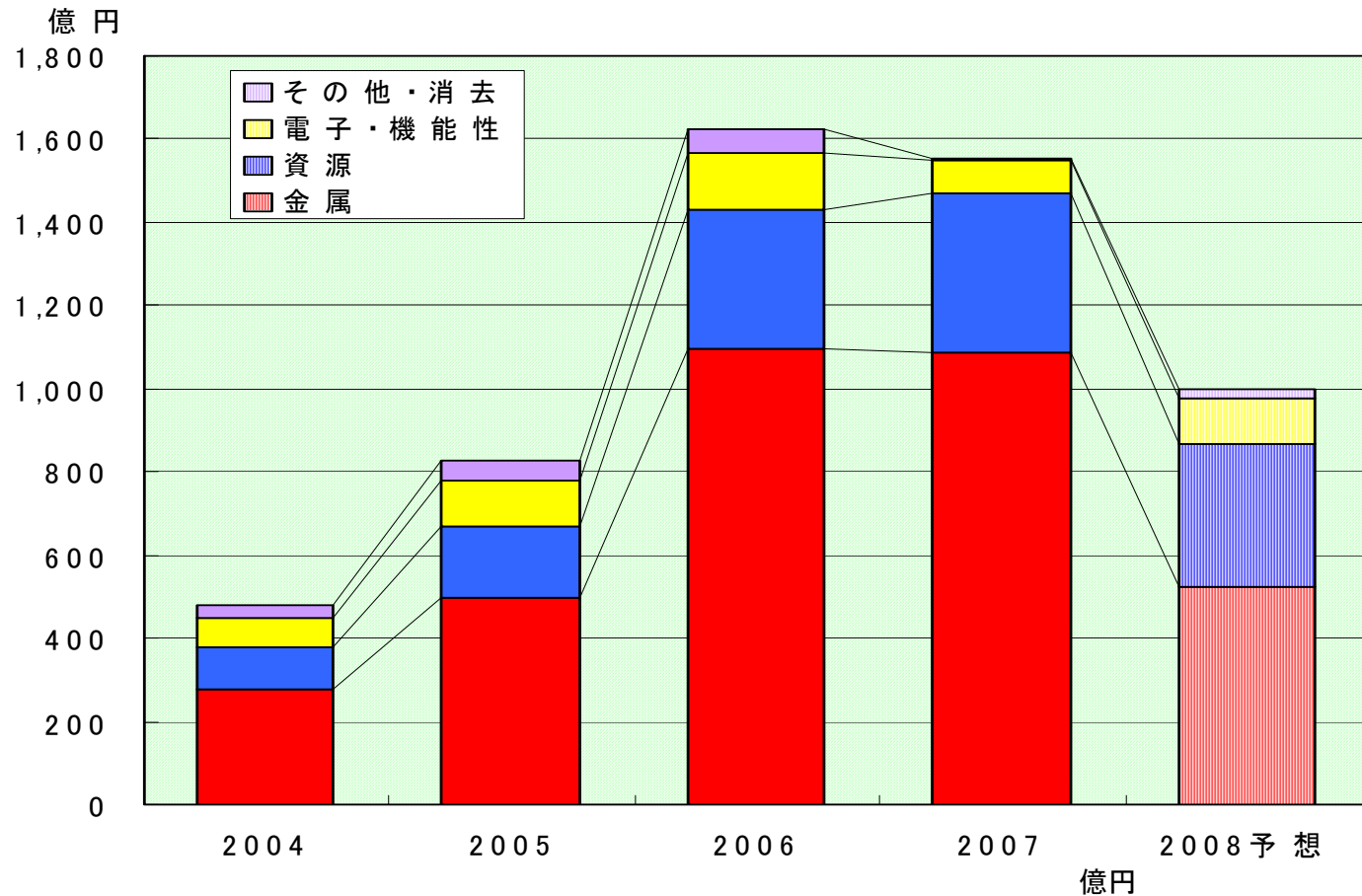
18世紀前半 住友長崎出店の古瓦

連結業績推移

(億円)
(100Millions of JPY)

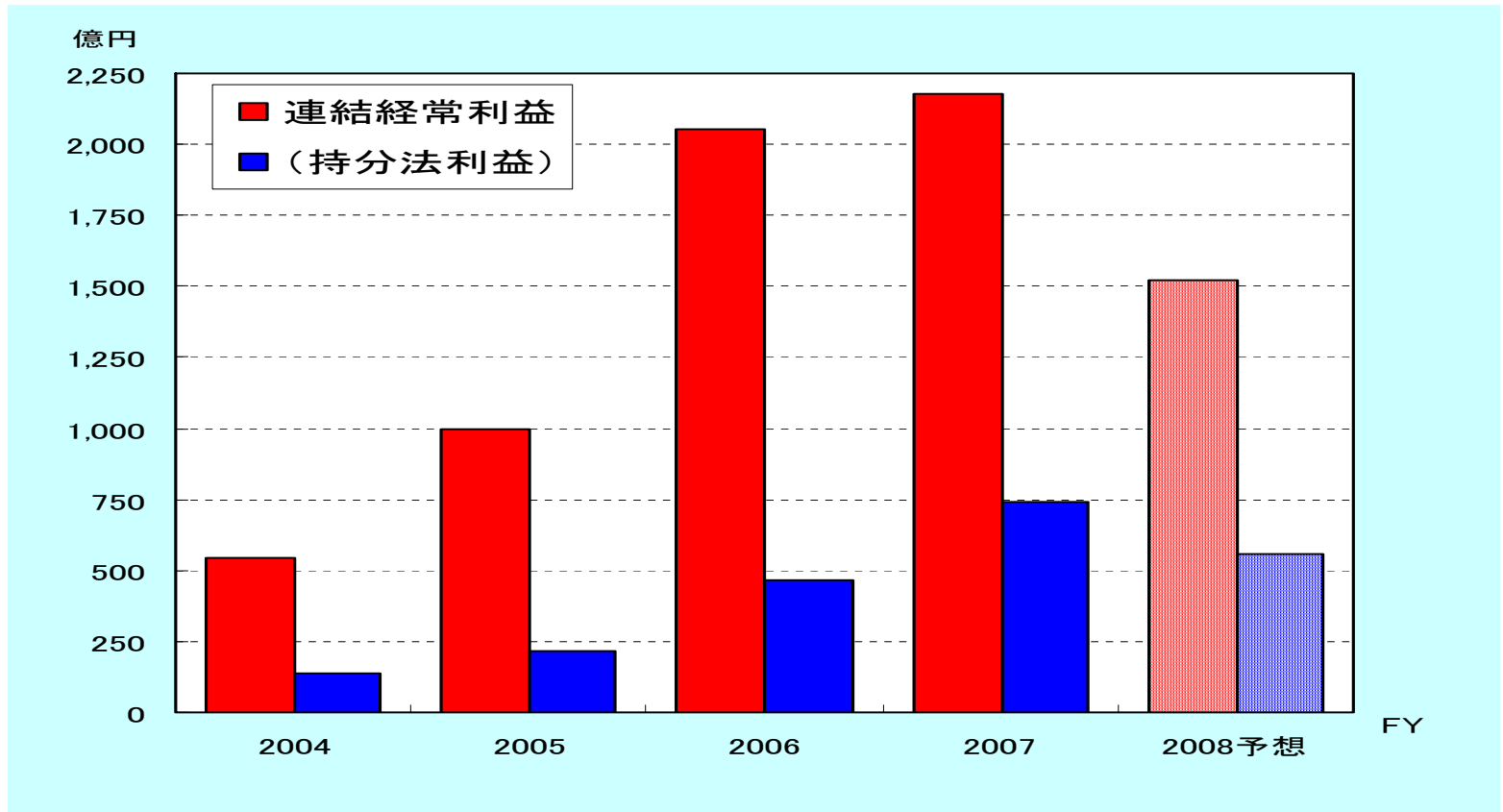
	FY04	FY05	FY06	FY07	FY08予想
売上高 Sales	4,846	6,256	9,668	11,324	9,570
営業利益 Operating Profit	479	828	1,626	1,554	1,000
経常利益 Recurring Profit	545	997	2,053	2,179	1,520
当期利益 Net Income	370	628	1,261	1,378	910
一株当り当期利益(JPY) Net Income / Share	64.77	109.96	220.49	238.13	157.10
一株当り配当金額(JPY) Dividend / Share	8.00	14.00	27.00	30.00	26.00

セグメント別営業利益



部門	2004	2005	2006	2007	2008予想
金属	277	497	1,096	1,088	523
資源	100	171	335	381	344
電子・機能性	73	112	136	82	108
その他・消去	29	48	59	3	25
再計	479	828	1,626	1,554	1,000

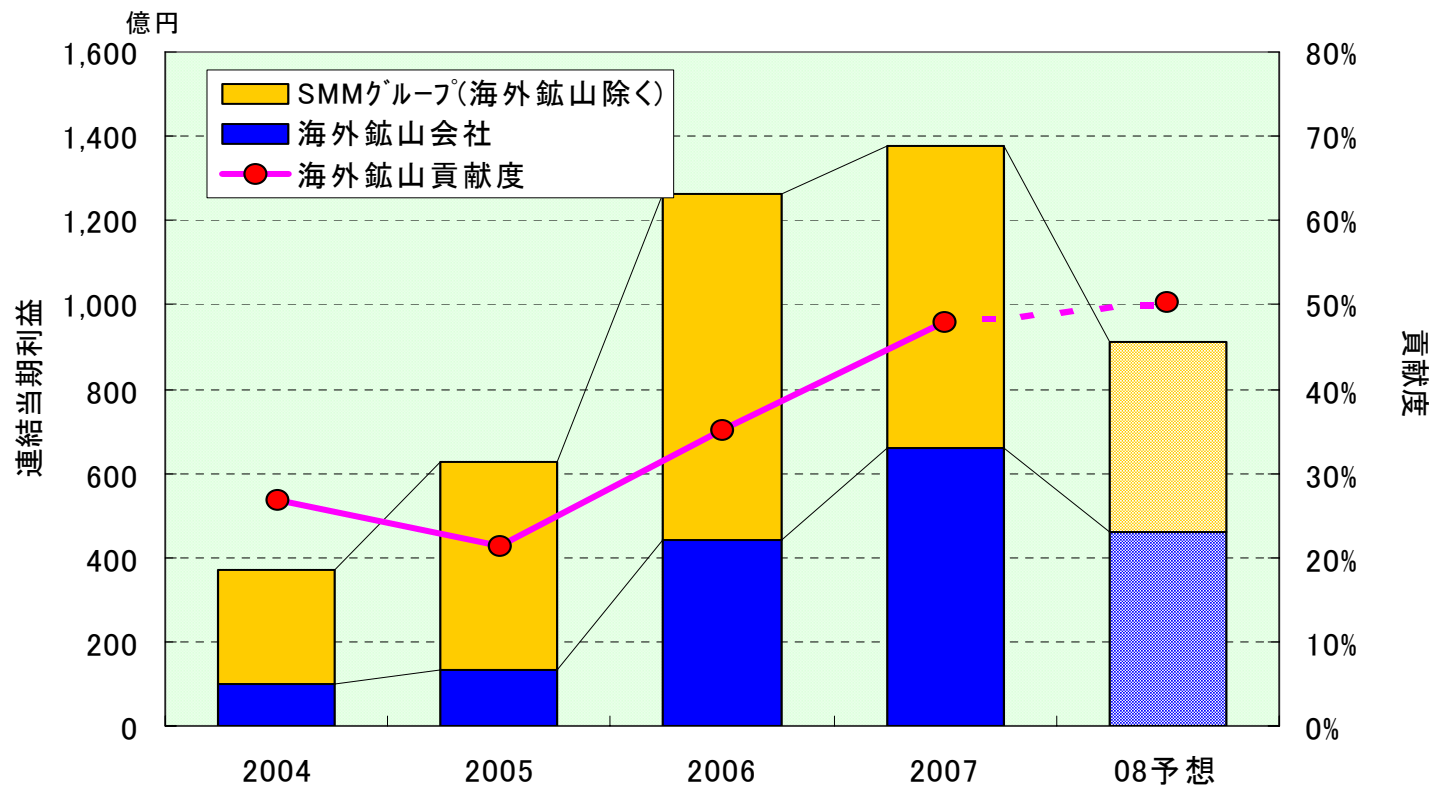
持分法投資利益



	億円				
	2004	2005	2006	2007	2008予想
連結経常利益	545	997	2,053	2,179	1,520
(持分法利益)	135	219	467	740	557

海外資源・金属部門の貢献度拡大

連結当期利益推移



■ の対象会社

連結対象 Cu : Morenci、Northparkes、Ni : Coral Bay、Gold : Pogo

持分法対象 Cu : Cerro Verde、Ojos、Candelaria、Ni : P.T.INCO、Figesbal

Ⅲ. FY07 VS FY06



ニッケル工場（愛媛県新居浜市）

07 VS 06 業績比較

経常利益126億円増益の要因

億円

	07決算	06決算	増減
売上高 Net sales	11,324	9,668	1,656
営業利益 Operating profit	1,554	1,626	△ 72
経常利益 Recurring profit	2,179	2,053	126
当期利益 Net income	1,378	1,261	117
Copper(\$/t)	7,584	6,970	614
Nickel(\$/lb)	15.47	14.02	1.45
Gold(\$/toz)	766.0	628.6	137.4
Exchange(¥/\$)	114.29	117.03	△ 2.74

1. 相場要因 : +160億円
2. 資源・金属プロジェクト効果 +230億円
3. 数量差 +80億円
4. コスト増 △130億円
 - 1) プロジェクトを除く海外鉱山 △110
(人件費、エネルギー代など)
 - 2) 国内 △20 (エネルギー・資材単価)
5. 電子・機能材、その他事業 △70億円
6. その他 △144億円

07 VS 06 業績比較

経常利益126億円増益の要因(詳細)

1. 相場要因 : +160億円

- 1) 金属価格・原料条件 +480(銅 +33、Ni +429、金 +36、亜鉛 △17)
- 2) 在庫評価影響 △280 06年度は評価益、07年度は評価損
- 3) 為替差(R/C相当) △10
- 4) その他(デリバティブ評価損益など) △30

2. 資源・金属プロジェクト効果 +230億円

3. 数量差 +80億円

4. コスト増 △130億円

プロジェクトを除く海外鉱山 △110 (人件費、エネルギー単価)、当社・国内関係会社 △20 (エネルギー・資材単価)

5. 電子・機能材、その他事業 △70億円

電子・機能材セグメント △54 基板材料、結晶材料等の販価ダウン

その他セグメント △25 再処理プロジェクト終了、建材需要減

海外鉱山、P.T.INCOを除く持分法適用会社 +5

6. その他 △144億円

海外鉱山持分法会社の税負担増 △71、為替差 △21、新株予約権付きローン付帯費用 △20、

その他 △32

07 VS 06 セグメント営業利益比較

億円

	07決算	06決算	増減	増減内容説明
資源	381	335	46	国内 +23、Pogo +19、海外銅鉱山 +4
金属・金属加工	1,088	1,096	△ 8	売上総利益(単体 + CBNC) +11
電子・機能材	82	136	△ 54	2層めっき基板の価格競争激化、金線の原材料価格差、In価格下落
その他	37	62	△ 25	建材減販、再処理プロジェクト07年度終了、使用済触媒リサイクル減販
消去	△ 34	△ 3	△ 31	原材料の棚卸資産計上時と概算支払い時との為替差 △35
合計	1,554	1,626	△ 72	

金属売上総利益(単体 + CBNC)増減内訳

億円

系別	数量差	価格・ 条件差	為替差	コスト 単価差*	在庫評価	その他
Cu系	△ 88	35	△ 97	△ 10	△ 24	18
Ni系	129	40	323	△ 2	△ 242	5
Zn系他	△ 30		△ 17	△ 1	△ 18	6
計	11	75	209	△ 6	△ 284	29

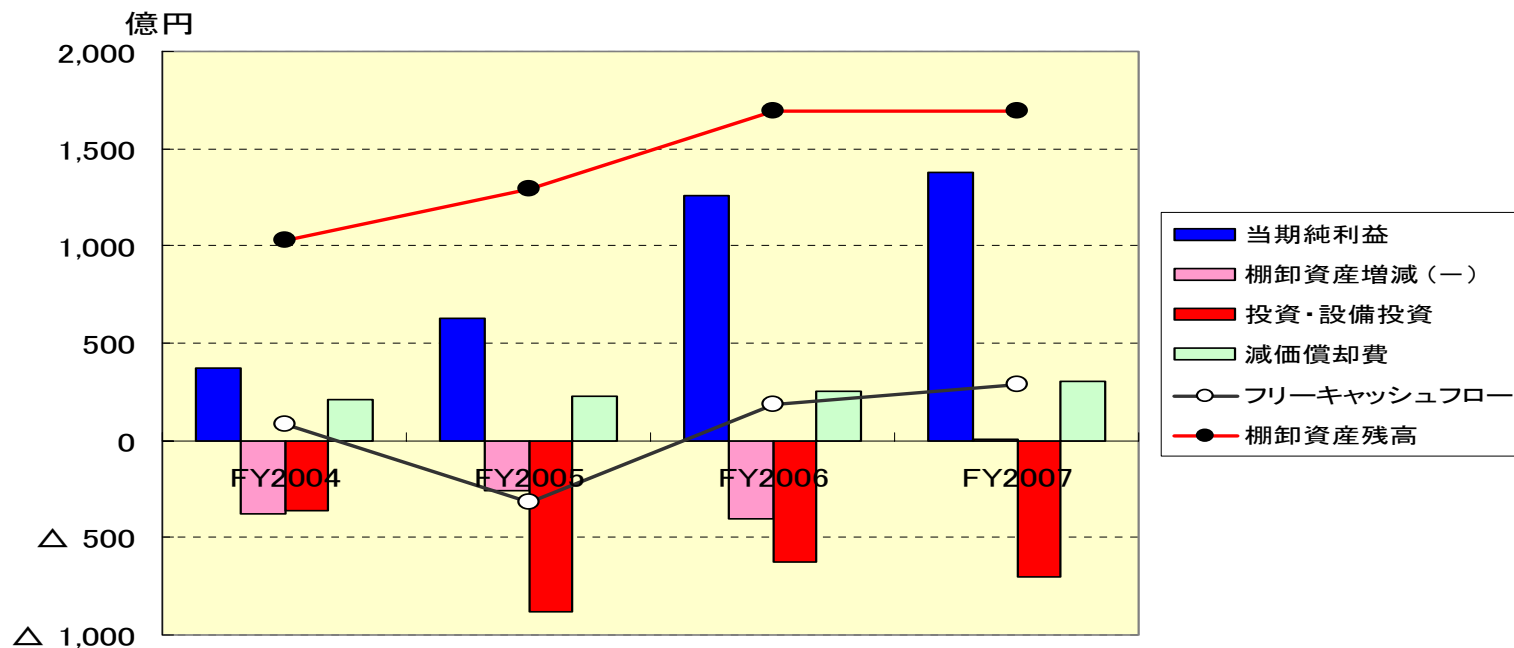
* 電力・操業資材(Oil、石炭等)

財務体質の状況

億円

	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007
総資産 Total assets	5,739	7,726	9,292	10,918
有利子負債 Interest-bearing debt	1,605	1,909	1,899	2,581
有利子負債比率 Interest-bearing debt ratio	28.0%	24.7%	20.4%	23.6%
自己資本比率 Equity ratio	49.5%	48.4%	53.4%	54.0%
D/E ratio	0.57	0.51	0.38	0.44
棚卸資産 Inventories	1,028	1,289	1,693	1,696

キャッシュフロー



億円

	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007
当期純利益 Net income	370	628	1,261	1,378
棚卸資産増減(一) Change in inventories	△ 378	△ 261	△ 404	△ 3
投資・設備投資 Investments	△ 365	△ 878	△ 625	△ 703
減価償却費 Depreciation	206	230	257	305
棚卸資産残高 Inventories	1,028	1,289	1,693	1,696
フリーキャッシュフロー Free cash flow	85	△ 316	186	289

IV. FY08 VS FY07



08 VS 07 業績比較

	億円		
	08予想	07決算	増減
売上高 Net sales	9,570	11,324	△ 1,754
営業利益 Operating profit	1,000	1,554	△ 554
経常利益 Ordinary profit	1,520	2,179	△ 659
当期利益 Net income	910	1,378	△ 468
Copper(\$/t)	7,500	7,584	△ 84
Nickel(\$/lb)	12.00	15.47	△ 3.47
Gold(\$/toz)	850.0	766.0	84.0
Exchange(¥/\$)	100.0	114.29	△ 14.29

経常利益△ 659億円減益の要因

1. 相場要因 : △ 450億円
2. コスト単価増 △ 200億円
 - 1) 海外鉱山 △70 (人件費、エネルギー代)
 - 2) 国内 △130
 - (1) エネルギー・資材単価 △63
 - (2) 減価償却費制度改正 △35
 - (3) フェロニッケル原料海上運賃 △30
3. 数量差 +80億円
4. 電子・機能材、海外鉱山・P.T.INCOを除く持分法損益 △ 30億円
5. その他 △ 59億円

08 VS 07 業績比較

経常利益△ 659億円減益の要因(詳細)

1. 相場要因 : △ 450億円

1) 金属価格・原料条件 △ 370

銅 37、Ni △ 439、金 +48、亜鉛 △ 15

2) 在庫評価影響 +50 07年度の評価損が08年度は大幅減少

3) 為替差(R/C相当) △ 150

4) その他(テリバティブ評価損益など) +20

2. コスト単価増 △ 200億円

海外鉱山 △ 70 : 人件費、エネルギー単価

国内 △ 130 : エネルギー・資材単価 △ 63、減価償却制度改正 △ 35、フェロニッケル原料海上運賃 △ 30

3. 数量差 +80億円

4. 電子・機能材、海外鉱山・P.T.INCOを除く持分法損益 △ 30億円

電子・機能材セグメント +26 : 基板材料拡販、原料QP差損の解消

海外鉱山、P.T.INCOを除く持分法適用会社 △ 56 : MSZ、金隆

5. その他 △ 59億円

為替差 △141、(連結為替差など)、未実現利益 + 36、新株予約権付きローン付帯費用 + 20、その他 26

08 VS 07 セグメント営業利益比較

億円

	08予想	07決算	増減	増減内容説明
資源	344	381	△ 37	国内 △ 34、Pogo + 58、海外銅鉱山 △ 64、その他・消去 +3
金属・金属加工	523	1,088	△ 565	売上総利益(単体 + CBNC) △595
電子・機能材	108	82	26	金線の原材料価格差解消、Tape増販、2層めつき基板拡販
その他	25	37	△ 12	使用済触媒リサイクル原料条件悪化、再処理プロジェクト外前期終了
消去	0	△ 34	34	原材料の棚卸資産計上時と概算支払い時との為替差 + 26
合計	1,000	1,554	△ 554	

金属売上総利益増減内訳

億円

系別	数量差	価格・ 条件差	為替差	コスト 単価差 *	在庫評価	その他
Cu 系	△ 223	△ 15	△ 25	△ 38	△ 15	△ 81
Ni 系	△ 312	34	△ 305	△ 92	△ 45	135
Zn系他	△ 60		△ 10	△ 2	△ 35	△ 6
計	△ 595	19	△ 340	△ 132	△ 95	48

* 電力・操業資材(Oil、石炭等) △ 49、減価償却費改正 △16、フェロニッケル原料海上運賃 △ 30

センシティブティ

億円

要素	変動幅	FY2007	FY2008
Cu	±100 \$/t	11 / 18	8 / 15
Ni	±1 \$/lb	60 / 80	65 / 84
Au	±30 \$/Toz	14 / 14	13 / 13
¥ / \$	±1 ¥/\$	10 / 10	11 / 11
原油	±10 \$/bbl	5 / 5	5 / 5
一般炭	± 10\$/t	5 / 5	5 / 5
原料炭	± 10\$/t	1 / 1	1 / 1

営業利益 / 経常利益 (Operating profit / Recurring profit)

¥ / \$はRC相当の為替差のみ(連結為替差を含まず)

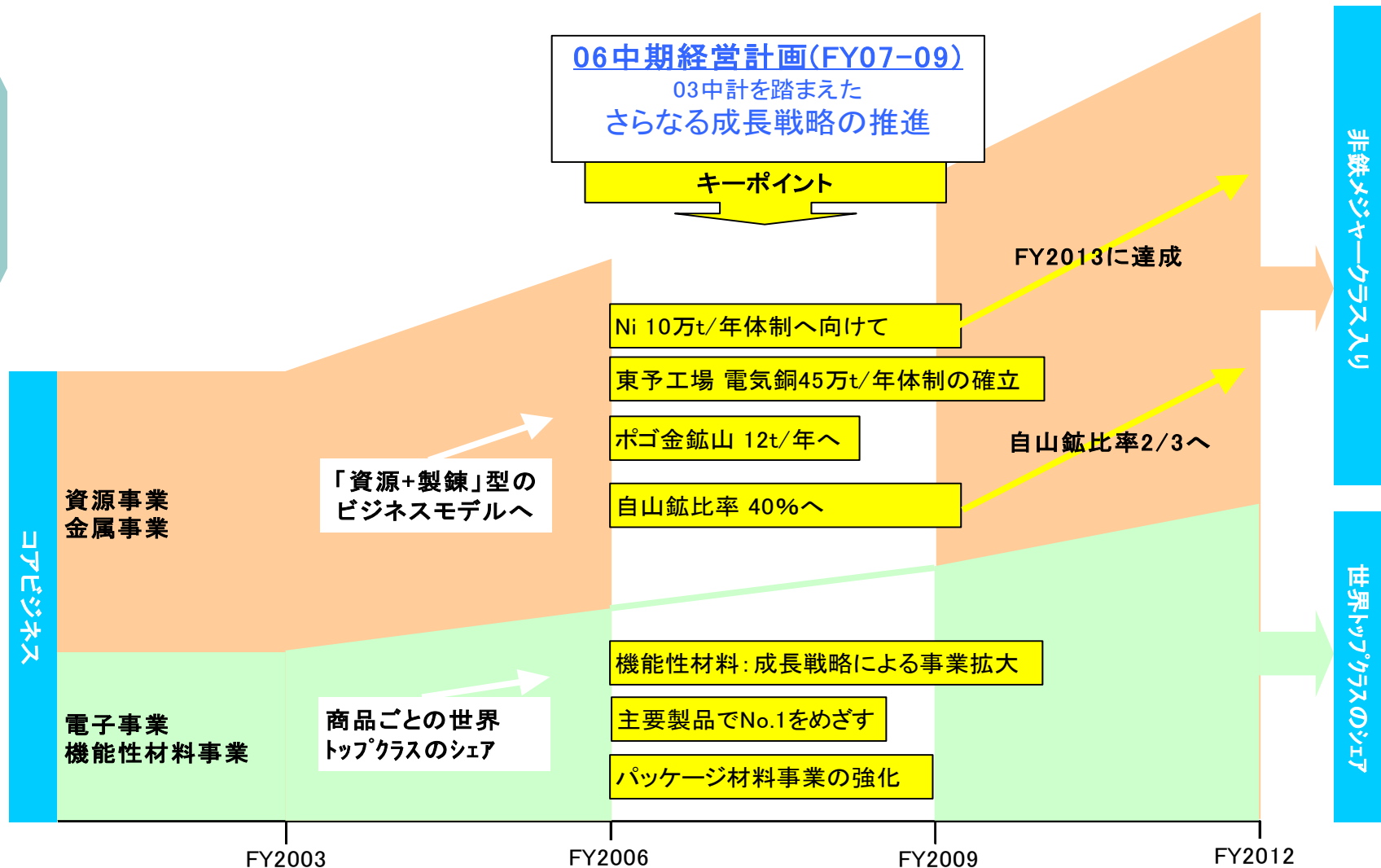
FY2008の前提 :

ドバイ原油 100\$/bbl、一般炭 125\$/t、原料炭 300\$/t

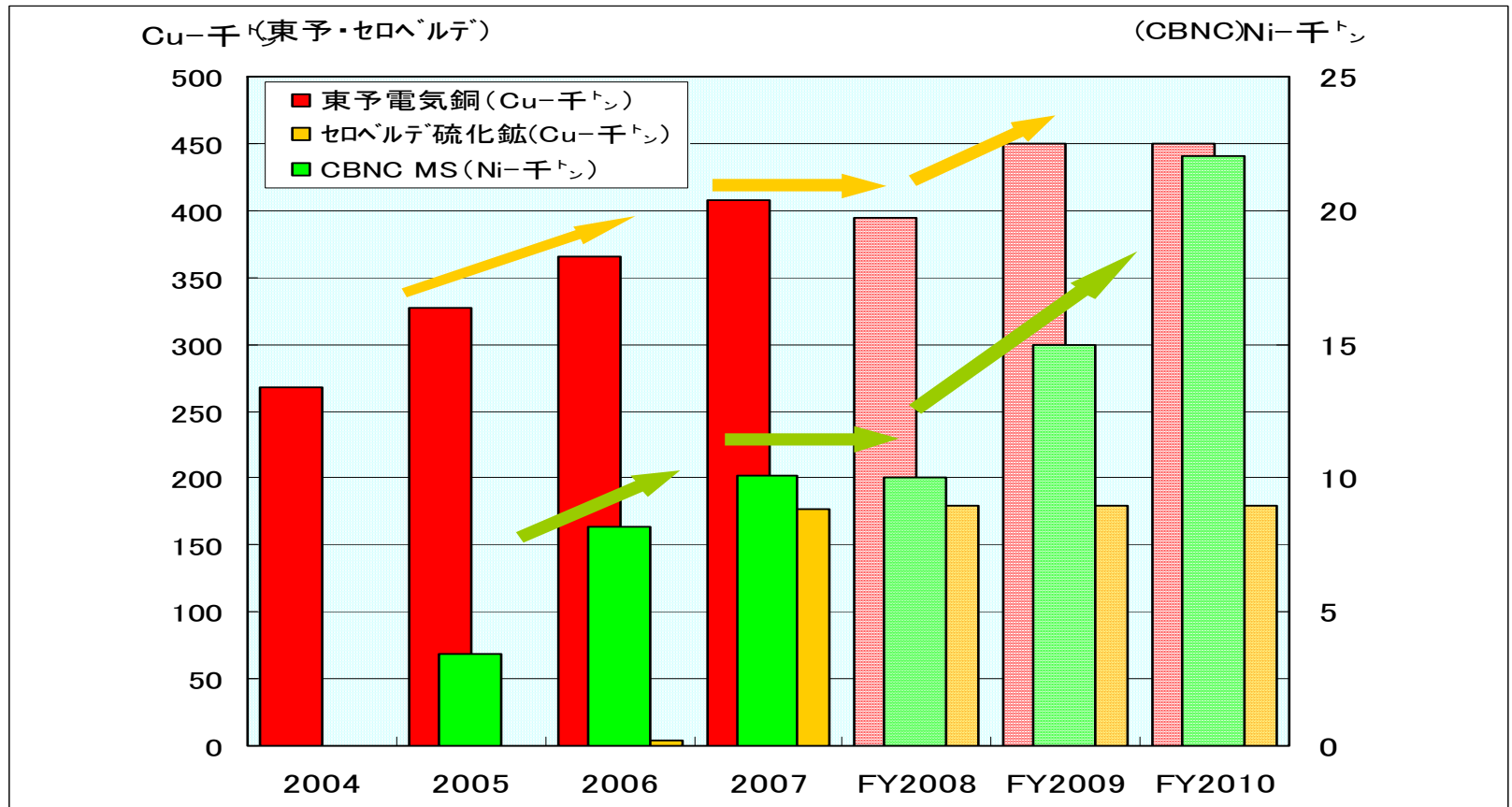
V. 中長期戦略におけるFY08の位置づけ



06中期経営計画(FY2007~2009)の位置づけ



資源・金属大型戦略の実現状況



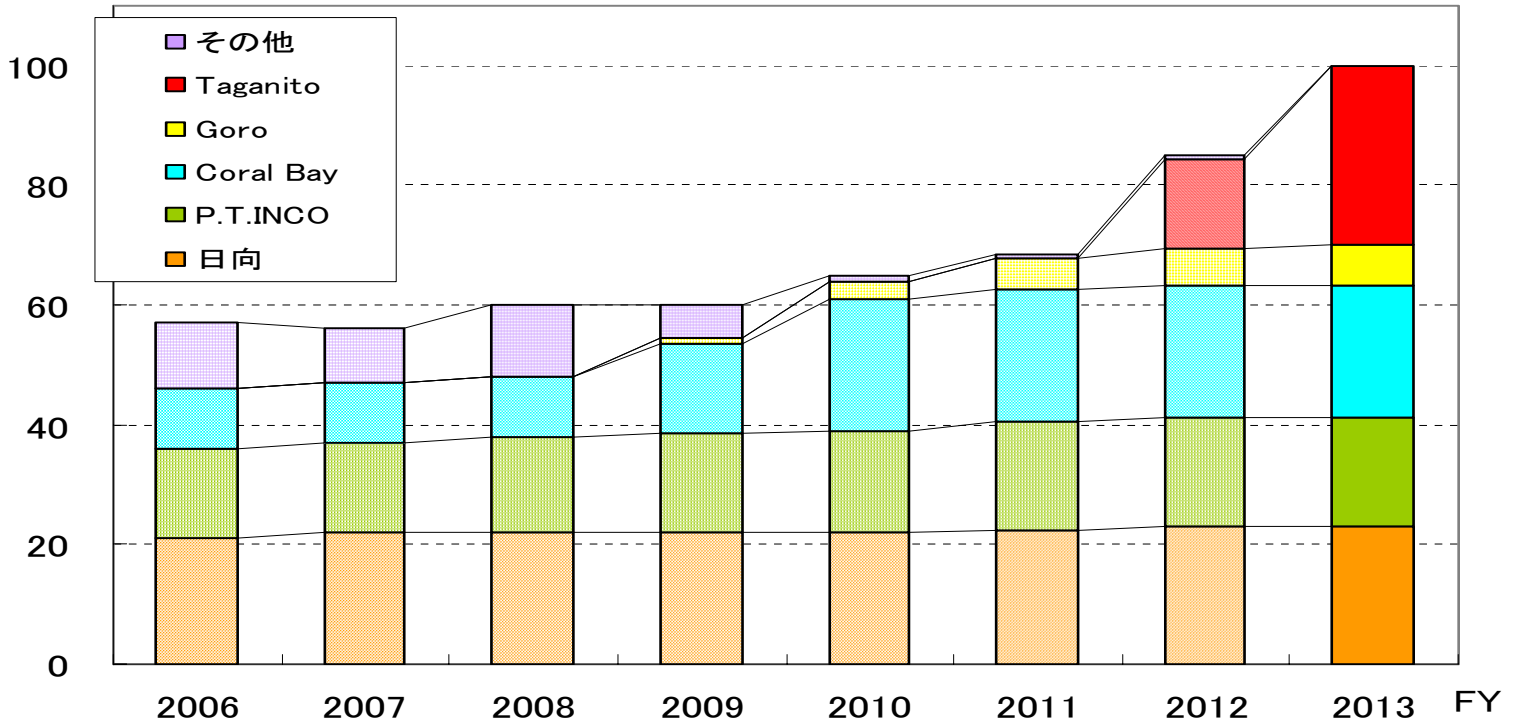
千トン/年

項目	FY2004	FY2005	FY2006	FY2007	FY2008
東予電気銅	268	327	366	407	394
CBNC MS	0	3.4	8.2	10.1	10.0
Cerro Verde硫化鋳	0	0	4	177	180

V-1

ニッケル10万吨体制の構築

千トン



(1) 0504 Coral Bay I 生産開始 10kt

(2) 0904 Coral Bay II 生産開始 10kt ⇒ 22kt

(3) 09年度 Ni工場能力 36kt ⇒ 41kt

(4) 09初 Goro生産開始 60Kt

(5) 2010 P.T.INCO 200M-pounds生産開始 15kt ⇒ 18kt

(6) 2012 Taganito生産開始 30Kt

(7) 2012 Ni工場能力 41kt ⇒ 65Kt **10万吨体制完成**

V-1

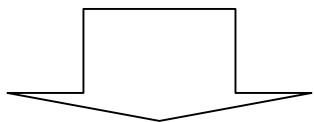
CBNC II

投資額307m\$

2009.4月 生産開始

2系列効果(ボイラー能力アップと相互ライン乗り入れ)
として、
キャパシティ

CBNC I 10,000t



CBNC II 22,000tへ



電気Ni 41千トン起業

2009.4月 生産能力36千トン→41千トン
(CBNCⅡの完成に合わせて)

総投資額 57億円

(2012年の生産能力65千トンへの
設備投資も視野に入れたもの)

浸出浄液、溶媒抽出、電槽増設など



V-2

東予電気銅45万吨体制

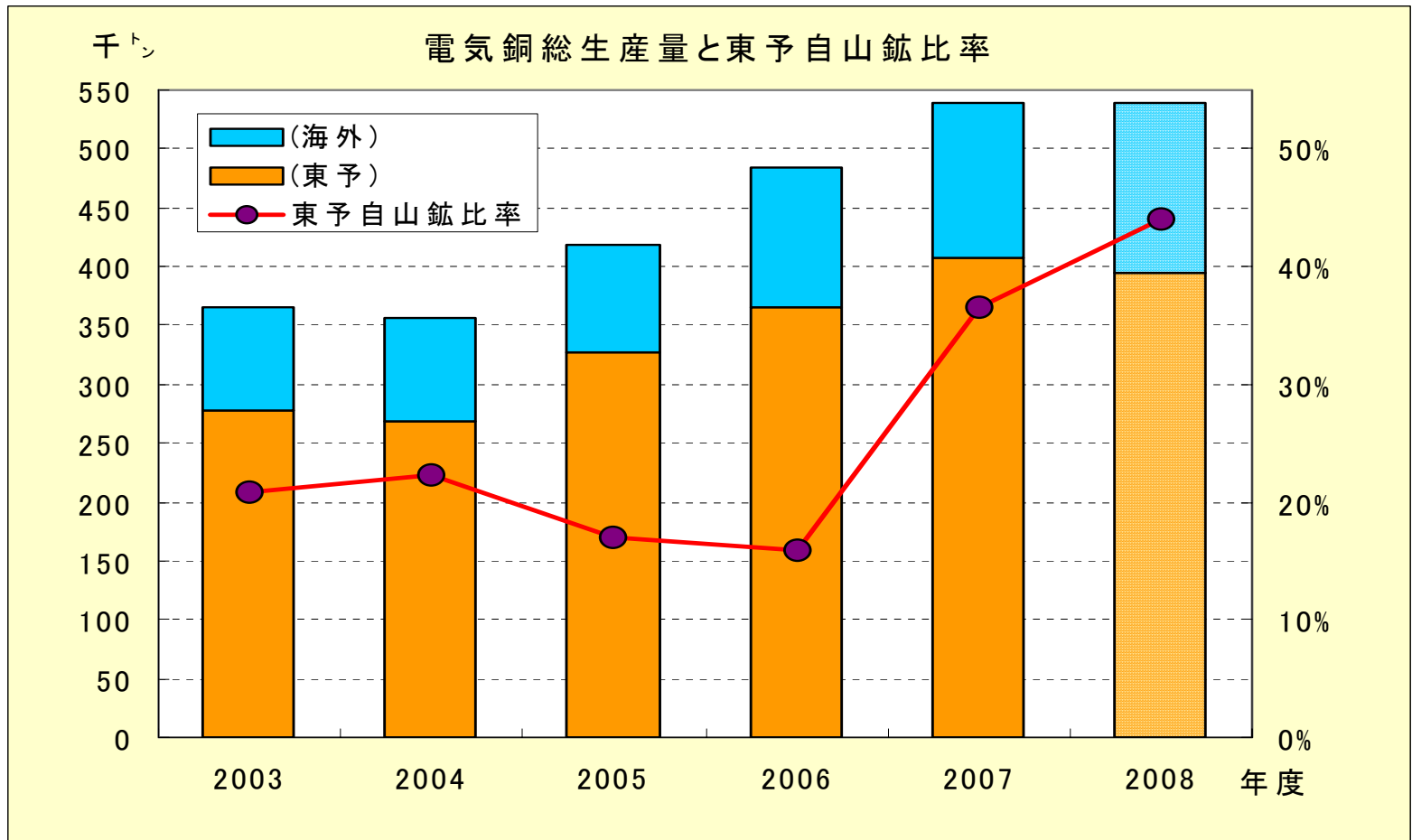
【キーワード】

1. 原料の確保
2. 電気銅増販
3. 硫酸の販路確保
4. 完成に向けて・・・



銅精鉱の品位低下に合わせた搬送系の改善と安定
操業の実現

電気銅 総生産量



2007年度の連結総生産銅量は東予、金隆の増産やCerro Verde硫化鉱の操業開始で約54万トンとなった。

2008年度も約54万トンを予定。金隆、Cerro Verdeなどで増産を計画。

V-2

原料確保 ～ Cerro Verde銅鋳山(Peru)

2007年度の概況 (100%)

2006年12月、硫化鋳の第一船が
SMM向け出荷。

生産量：

硫化鋳 390,632千lbs (177.2千トン)

電気銅 203,595千lbs (92.3千トン)

営業利益：1,215.2百万\$

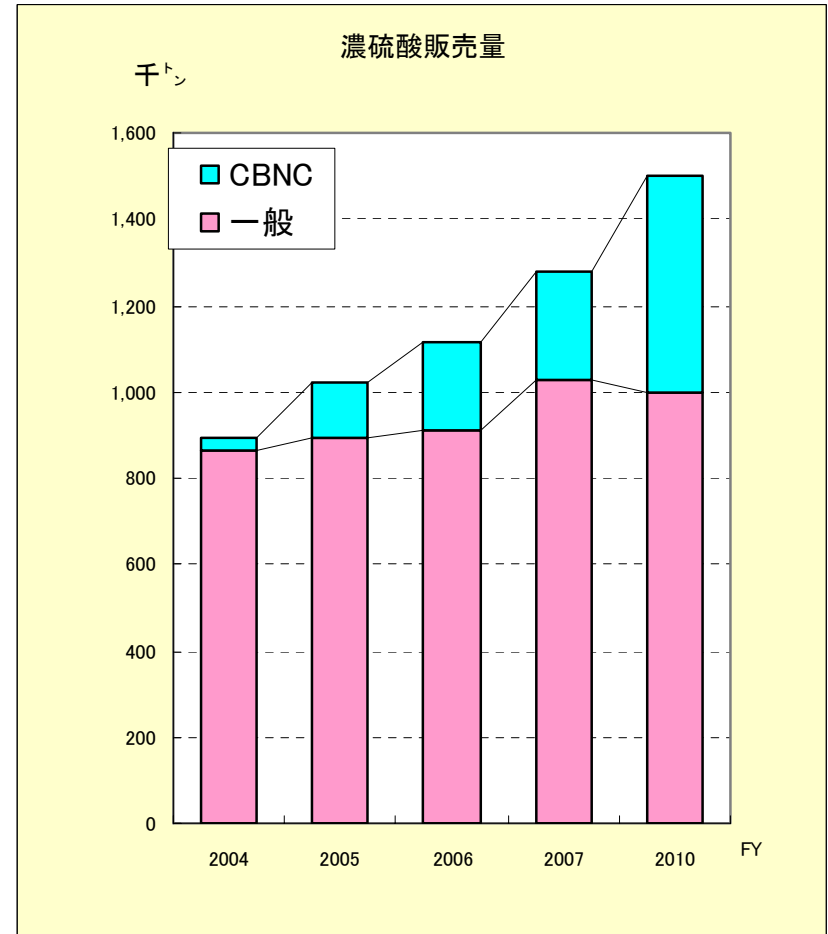
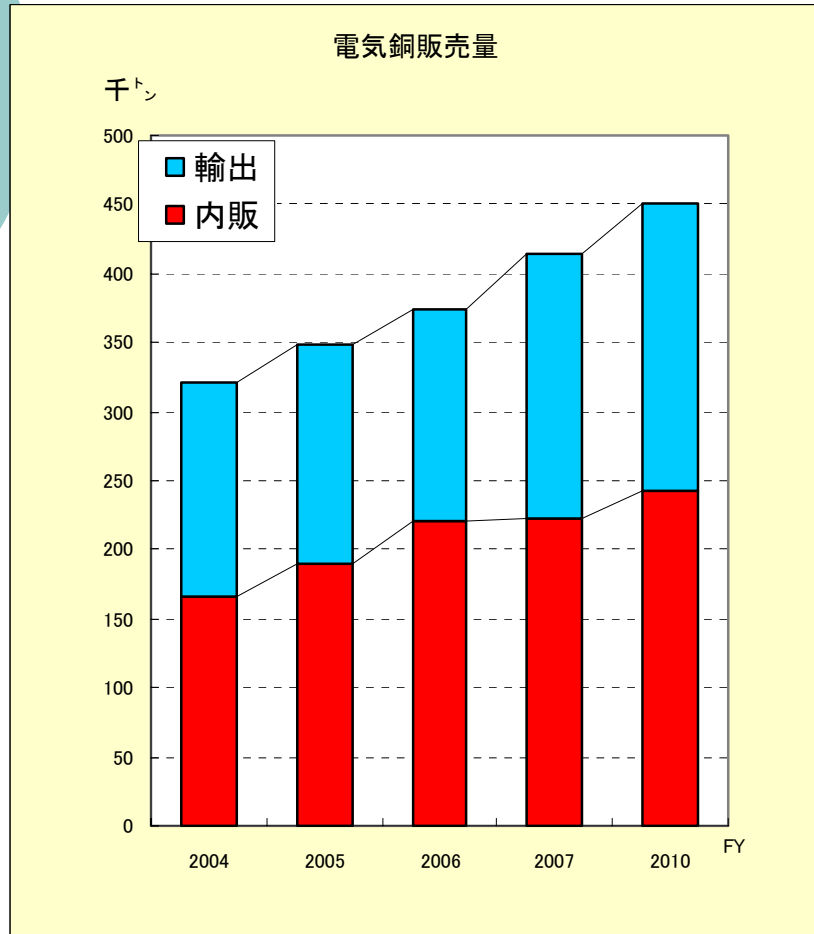


Cerro Verde硫化鋳の稼動開始で東予工場の自山鋳比率
は2006年度の16%から2007年度には37%に上昇。

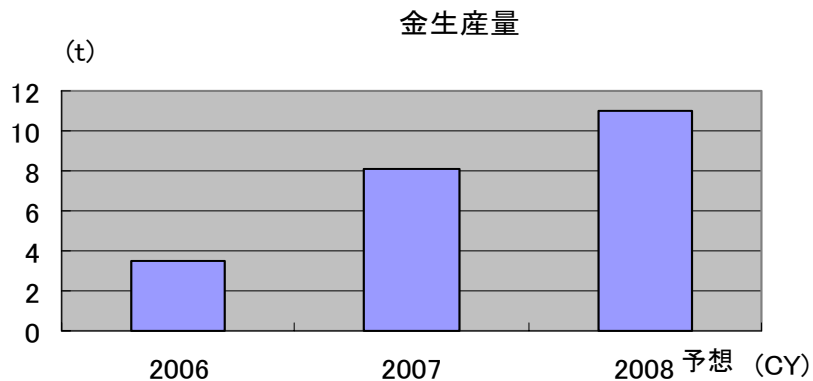
電気銅・硫酸の拡販

電気銅販売は国内景気の回復と東南アジアの需要増で着実に増販

濃硫酸の増産分はコーラルベイのHPAL (High pressure acid leach)プラントで使用



V-3 Pogo



2007年度の操業状況

生産量 : 8.1t

Cash operating cost : 542 \$/toz

営業損失 : Δ 1.6百万\$

尾鉱フィルタープレスの追加工事が2007年3月まで要したため、
2007年度は通期フル生産には至らず。

2007年4月、商業ベース操業度(フル操業時の80%)に到達。

2008年度は11tの計画生産量達成を最優先に取り組む。



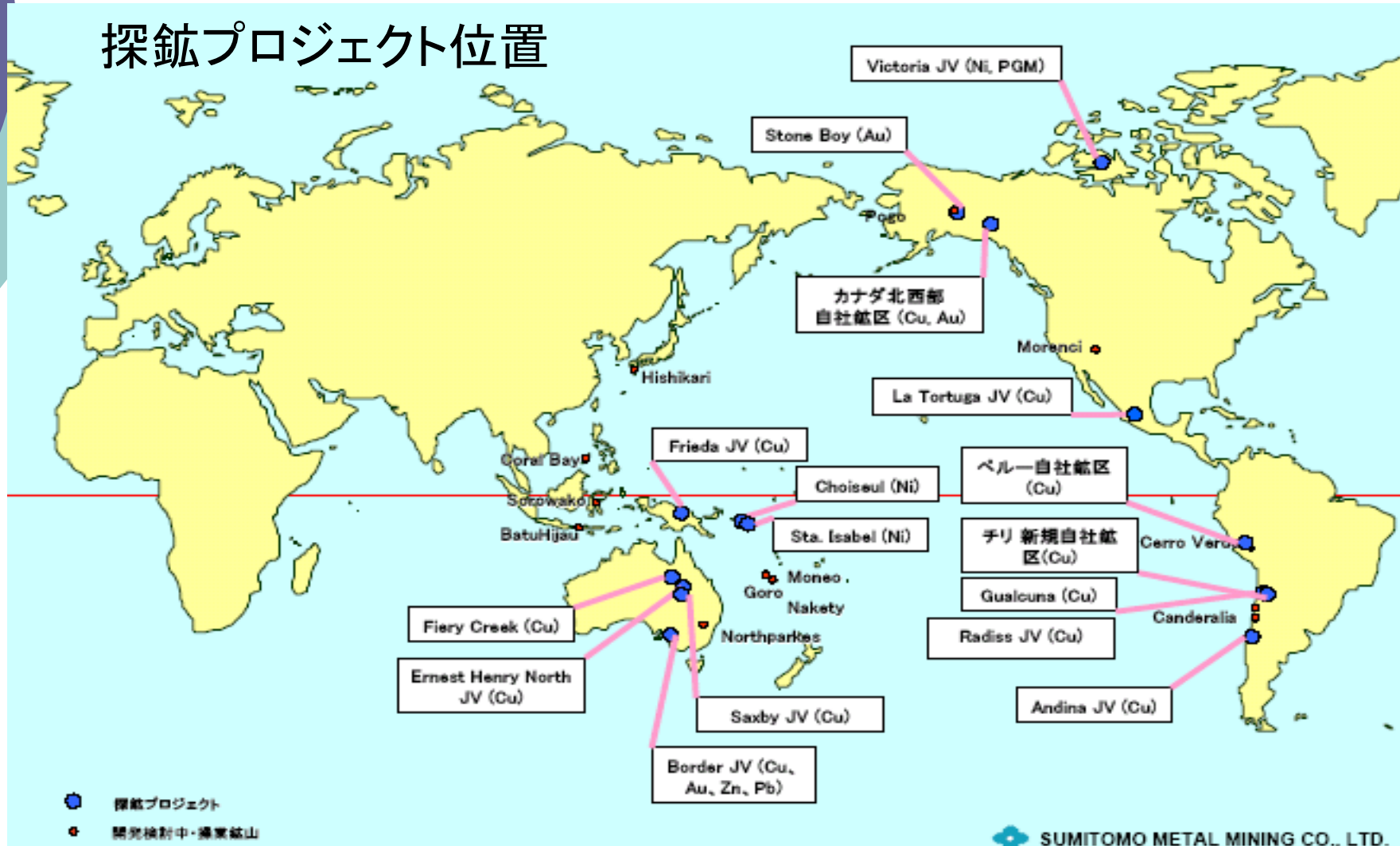
V-4

探鉱の拡大

Cu鉱山、ソロモンを中心に

探鉱費を25億円から47億円に増額

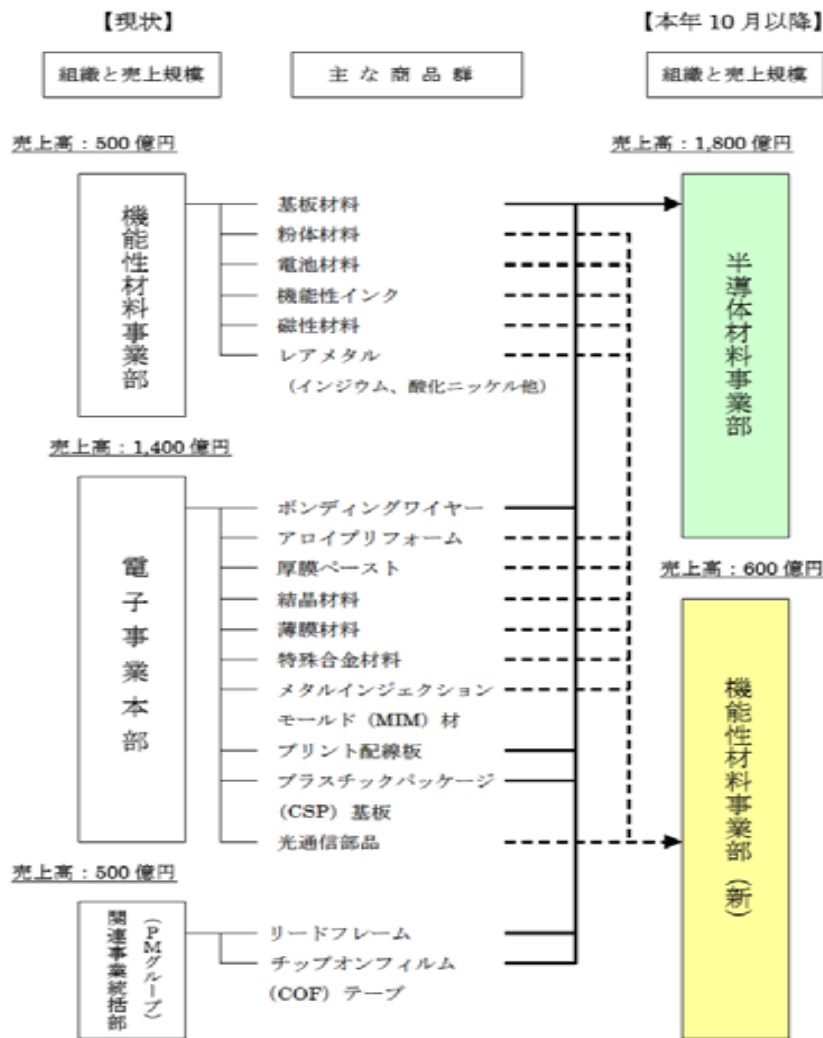
探鉱プロジェクト位置



V-5 電子・機能材 09年度営業利益200億円へ

シナジーを狙った戦略企画・
開発・営業・生産体制の確立

- ・セミアディティブ法によるCOFハイエンド品の展開
- ・ニッケル粉とニッケルペーストの並行開発
- ・インジウムと薄膜材料の生産の一体化



【注】売上規模は、いずれも『2006年中期経営計画』値

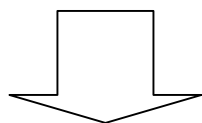
V-5

電子・機能材 シナジー効果を発揮

セミアディティブ(新製造法)によるCOF増産

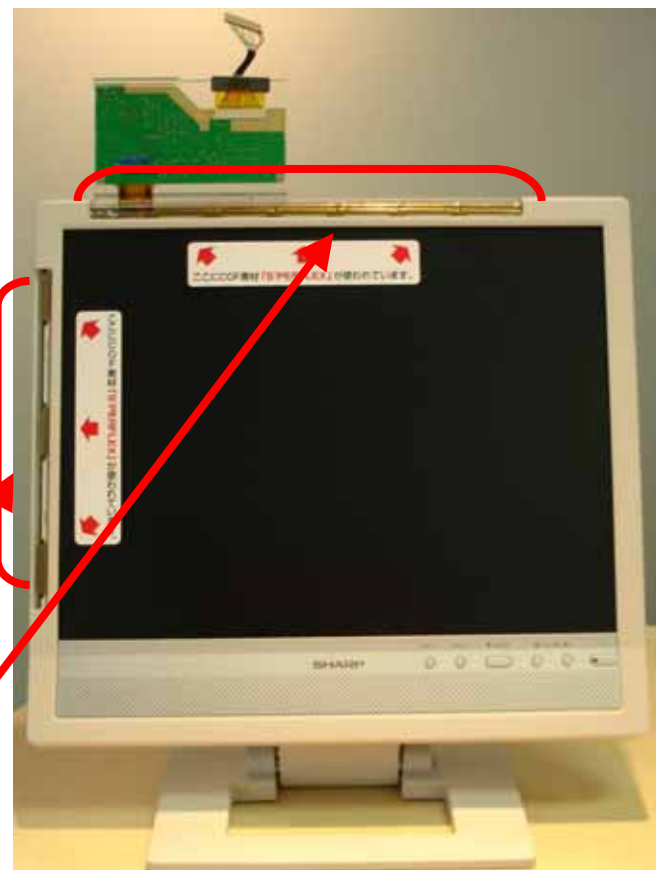
- ・20ミクロンピッチのハイエンド品がターゲット
- ・2層めっき基板技術とCOF技術のシナジー

台湾でシェアを40%(現在20%弱)とすること



世界シェア20%

COF



ご注意

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載されている将来の予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。